

マルクス=エンゲルス全集版

資 本 論

6

資本論 第六卷
増補版
全三冊

資 本 論 (6) (全9冊)

1972年5月27日第1刷発行
1980年7月31日第6刷発行

定価はカバーに表示してあります

訳 者◎ 岡 崎 次 郎

発行者 平 智 享

〒113 東京都文京区本郷2-11-9

発行所 株式会社 大 月 書 店

印刷 三晃印刷
製本 田中製本

電話(営業)813-4651(編集)814-2931 振替 東京3-16387

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製(コピー)することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合にはあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

国 民 文 庫

25

資 本 論

(6)

第三卷 第一分冊

カール・マルクス著
岡 崎 次 郎 訳



大月書店

KARL MARX
DAS KAPITAL
Dritter Band

KARL MARX • FRIEDRICH ENGELS
WERKE • Band 25

Institut für Marxismus - Leninismus beim ZK der SED
Dietz Verlag Berlin 1964

From German translated by Jiro Okazaki
Otuki Shoten Publishers, Tokyo
Printed in Japan, 1972

凡 例

一 この国民文庫版『資本論』の底本は、ドイツ社会主義統一党中央委員会付属マルクス・レーニン主義研究所編集『カール・マルクス・フリードリヒ・エンゲルス全集、第二三—二五巻』、ディーツ社発行、ベルリン、一九六二—六四年 („Karl Marx - Friedrich Engels Werke. Band 23—25“, Institut für Marxismus - Leninismus beim ZK der SED. Dietz Verlag, Berlin, 1962—64)である。

一 前記の全集では第二三巻が『資本論』第一巻、第二四巻が『資本論』第二巻、第二五巻が『資本論』第三巻であるが、この文庫版訳書ではこれを全九分冊に分割し、第一巻を(1)～(3)（第一巻第一～三分冊）、第二巻を(4)、(5)（第二巻第一、二分冊）、第三巻を(6)～(8)（第三巻第一～三分冊）とし、さらに原書各巻の付録を一括して(9)「解題・索引」とした。

一 原書各巻の付録は、ドイツ語版全集編集者注解、文献目録、人名索引、文芸作品・聖書・神話登場者名索引、度量衡・通貨表から成っているが、右のうち編集者注解のみはこの訳書では後述のような方式で各分冊ごとにそれぞれの範囲に属する部分を付録として収載した。

一 (9)「解題・索引」には前記の付録のほかに訳者後記および解題（『資本論』成立小史および

全巻構成略説を含む）を収載した。

一 この訳書では上欄の丸括弧内のアラビア数字によってドイツ語全集版原書の対応ページを示し、原文と訳文との対照の便宜を計った。なおディーツ社からは全集第二三―二五巻と同じ紙型を使用した単行本『資本論』が一九六五年に出版されたが、そのページ付は全集版と同じである。

一 原著者が他の文献から引用している文章とその原典の文章とのあいだに相違が見いだされる場合には、原著者自身が引用またはドイツ語訳している文章によって訳出し、本文と区別してやや小さい活字で一字分下げて印刷してある。

一 原書でドイツ語以外の語句または文章が使用または引用されている場合にはこの訳書ではその原語句または原文の記載は原則として省略し、文章理解のために特に必要と思われる場合にのみそれを角括弧「」に入れて記載した。

一 原文中のイタリック体の部分には訳文では傍点をつけ、原文中のゴシック体の部分は訳文でもゴシック体にした。ただし、見出し、署名、日付などは原文がイタリック体でも訳文の傍点を省略し、また付録では訳文全体にわたって傍点を省略した。

一 訳文の右わきの漢数字通し番号一、二、等々は、マルクスまたはエンゲルスの手になる原書脚注番号を示し、その注の訳文は本文の各段落のあとに記載した。さらに丸括弧内の漢数字通し番号（一）、（二）、等々はドイツ語全集版編集者の手に成る各巻末付録中の注解番号を示し、その

注解の訳文はこの文庫版では前記のように各分冊ごとに関係分のみを付録として収録し、二つ以上の分冊に共通な注解はそれぞれの分冊に同じ番号で再録した。

- 一 ドイツ語全集版編集者の手に成る原書脚注の訳文と訳者がつけ加えた訳注とは、*をつけて本文または原注の各段落のあとに記載し、編集者注と訳者注とを区別するために後者には文末に訳者と付記した。

- 一 訳文中の角括弧「」内の小活字の語句は、文意または語義の理解のために必要と思われる説明を訳者が簡単に補足したものである。

- 一 注解、文献目録、人名索引、事項索引、ドイツ語全集版編集者注のなかの参照指示ページは、すべてドイツ語版原書各巻のページ（この訳書の上欄の丸括弧内のアラビア数字）を示す。

- 一 主として文献目録および人名索引のなかのドイツ人以外の人名の表記は、原書では多くはドイツ語式になっているが、この訳書では可能なかぎり各人固有の原語による表記に改めるとともに、原語の発音を仮名書きで示した。

- 一 引用文献のうち邦訳書のあるものは、なるべく今日入手しやすいもの一種を角括弧「」に入れて付記した。ただし、訳文の大多数は本書の訳者自身の手に成るものである。

- 一 ドイツ語版全集編集者の手に成る脚注、注解、文献目録のなかで単に「全集」と訳してあるのは、マルクス・レーニン主義研究所編集『マルクス・レーニエングル全集』（ディーツ社発行）をさす。

一 ドイツ語全集版原書付録中のドイツ語以外の引用文の原文抄録および本文中で使用された外

国語の説明は、邦訳書には不要と思われるので、収載しなかった。

目次

エンゲルス 序 文…………… 一七

第三部 資本主義的生産の総過程

第一篇 剰余価値の利潤への転化と剰余価値率の利潤率への

転化…………… 五三

第一章 費用価格と利潤…………… 五三

第二章 利潤率…………… 七五

第三章 利潤率と剰余価値率との関係…………… 八八

第四章 回転が利潤率に及ぼす影響…………… 一二三

第五章 不変資本充用上の節約…………… 一三三

第一節 概 説…………… 一三三

第二節 労働者を犠牲としての労働条件の節約…………… 一四九

第三節 発動、伝動、建物の節約…………… 一六四

第四節	生産の排泄物の利用……………	一七一
第五節	発明による節約……………	一七六
第六章	価格変動の影響……………	一七八
第一節	原料の価格変動　それが利潤率に及ぼす直接的影響……………	一七八
第二節	資本の増価と減価　資本の遊離と拘束……………	一八六
第三節	一般的例証　一八六一—一八六五年の綿花恐慌……………	二〇八
	前史　一八四五—一八六〇年……………	二〇八
	一八六一—一八六四年。アメリカの南北戦争。綿花飢饉。原料の欠乏と騰貴とによる生産過程中断の最大の実例……………	二一五
	綿屑。東インド綿（スーラット）。労働者の賃金への影響。	
	機械の改良。澱粉や鉛物での綿花の代用。この澱粉糊が労働者に及ぼす影響。細番手糸の紡績業者。工場主の欺瞞……………	二一八
	無価値体実験 [Experimente in corpore vili]……………	二二八
第七章	補　遺……………	二三三
第二篇	利潤の平均利潤への転化……………	二三九
第八章	生産部門の相違による資本構成の相違とそれにもとづく利潤率の相違……………	二三九

第九章 一般的利潤率（平均利潤率）の形成と商品価値の

生産価格への転化……………二五九

第一〇章 競争による一般的利潤率の平均化 市場価格と

市場価値 超過利潤……………二八七

第十一章 労賃の一般的変動が生産価格に及ぼす影響……………三三〇

第十二章 補 遺……………三三七

第一節 生産価格の変動をひき起こす諸原因……………三三七

第二節 中位構成の商品の生産価格……………三三九

第三節 資本家の補償理由……………三四一

第三篇 利潤率の傾向的低下の法則……………三四七

第一三章 この法則そのもの……………三四七

第一四章 反対に作用する諸原因……………三八一

第一節 労働の搾取度の増強……………三八一

第二節 労働力の価値以下への労賃の引下げ……………三八六

第三節 不変資本の諸要素の低廉化……………三八六

第四節 相対的過剰人口……………三八七

第五節 貿 易	三八八
第六節 株式資本の増加	三九三
第一章 この法則の内的な諸矛盾の展開	三九五
第一節 概 説	三九五
第二節 生産の拡大と価値増殖との衝突	四〇三
第三節 人口の過剰に伴う資本の過剰	四〇九
第四節 補 遺	四二三
第四篇 商品資本および貨幣資本の商品取引資本および貨幣	
取引資本への転化（商人資本）	四三七
第一六章 商品取引資本	四三七
第一七章 商業利潤	四五九
第一八章 商人資本の回転 価格	四九三
注 解	五一三

『資本論』各分冊（全九冊）目次

文庫版(4) 第二卷第一分冊

第二部 資本の流通過程

第一篇 資本の諸変態とその循環

第二篇 資本の回転

（第一章 流通期間 まで）

文庫版(5) 第二卷第二分冊

第二篇 資本の回転

（第一章 回転期間が資本前貸の大きさに及ぼす影響 より）

第三篇 社会的総資本の再生産と流通

文庫版(6) 第三卷第一分冊

第三部 資本主義的生産の総過程

第一篇 剰余価値の利潤への転化と剰余価値率の利潤率への転化

第二篇 利潤の平均利潤への転化

第三篇 利潤率の傾向的低下の法則

第四篇 商品資本および貨幣資本の商品取引資本および貨幣取引資本への転化（商人資本）（第一章 商人資本の回転 価格 まで）

文庫版(1) 第一卷第一分冊

第一部 資本の生産過程

第一篇 商品と貨幣

第二篇 貨幣の資本への転化

第三篇 絶対的剰余価値の生産（第七章 剰余価値率 まで）

文庫版(2) 第一卷第二分冊

第三篇 絶対的剰余価値の生産（第八章 労働日 より）

第四篇 相対的剰余価値の生産

文庫版(3) 第一卷第三分冊

第五篇 絶対的および相対的剰余価値の生産

第六篇 労働賃

第七篇 資本の蓄積過程

文庫版(7) 第三卷第二分冊

第四篇 商品資本および貨幣資本の商品取引資本

および貨幣取引資本への転化(商人資本)

(第十九章 貨幣取引資本 より)

第五篇 利子と企業者利得とへの利潤の分裂 利

子生み資本

文庫版(8) 第三卷第三分冊

第六篇 超過利潤の地代への転化

第七篇 諸収入とそれらの源泉

文庫版(9) 総目次・総索引・解題

『資本論』総目次

文献目録

人名索引

文学・聖書・神話登場者名索引

事項索引

度量衡・通貨表

訳者後記

解題

カール・マルクス

資本論

経済学批判

第三卷 第三部 資本主義的生産の総過程

フリードリヒ・エンゲルス編集